

実践 さつま町立求名小学校

1 はじめに

本校は、県北部の内陸地域に位置する“人・自然・元気がややく町”さつま町にある全校児童 55 人の学校である。創立 143 年の本校では、「校区にひびくあいさつ・心をひらく読書活動・伝統をつなぐ鷹踊り」をキャッチフレーズに「自信と誇りをもった求名の子ども」の育成に取り組んでいる。ここでは、豊かな感性を育み、学びの基礎となる「読書活動」の取組について紹介したい。

2 活動の実際

(1) 「読書マイブック」の活用～世界でたった一冊のわたしの読書の記録本～

各学級では、子ども一人一人に「読書マイブック」を準備している。自分のお気に入りの本を持った写真が「読書マイブック」の表紙を飾る。

毎年手作りするこの「読書マイブック」の中身は、次のような内容で構成されている。

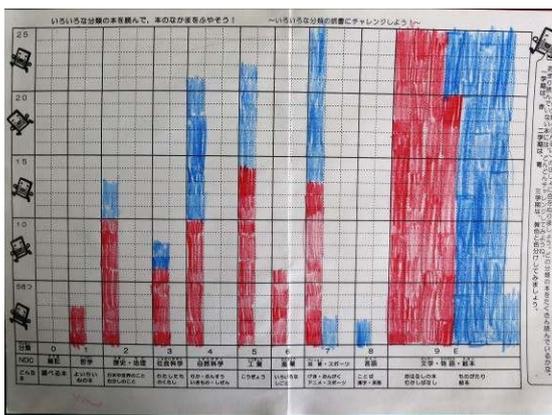
【読書マイブックの内容】

- 各学期の読書目標・反省
- 図書分類表
- 求名小おすすめ図書(教科書とさつま読書のすすめから選定)
- 親子読書コーナー
- こども図書館(えほんの森)に行こうカード
- こども図書館に行こうカード
- 調べ学習記録カード 等



子どもたちは、朝の読書の時間や昼休み等を使って、「読書マイブック」に読書の記録を行っている。おすすめの本を 1 冊読み終わる度に記録をすることで達成感が生まれる。次はこの本を読もうという新たな意欲がわいている。また、図書分類表でグラフ化することは、「自分がどの分類の本をよく読み、どの分類をあまり読んでいないのか」がすぐに分かり、バランスよく本を読もうとする意識付けになっている。自分の読書活動の足跡を記す「読書マイブック」は子どもたちの宝物の本になっている。

「図書分類表」分類ごとに冊数をグラフ化しています。学期ごとに色も変えます。



「親子読書」の記録です。

(2) 夏の合同読書研修会の実施～IN子ども図書館～

昨年度、子どもたちの読書意欲を高める指導法を学ぶために県立図書館から講師を招いて、町内の司書の方々とともに研修を行った。ここで学んだ手法は、朝の読み聞かせの時間で早速役立った。読み聞かせをした後に、その内容を振り返らせる「アニメーション」を行うことで、集中しながら聞く態度も身に付いてきている。



(3) 校内読書環境の整備～毎月変わる「読書ひろば」～

2階から3階をつなぐ階段のデッドスペースを利用し、「読書ひろば」を設置している。季節や行事に応じた本の紹介がなされ、子どもたちがいつでも気軽に本を手にとれるような温かな広場になっている。



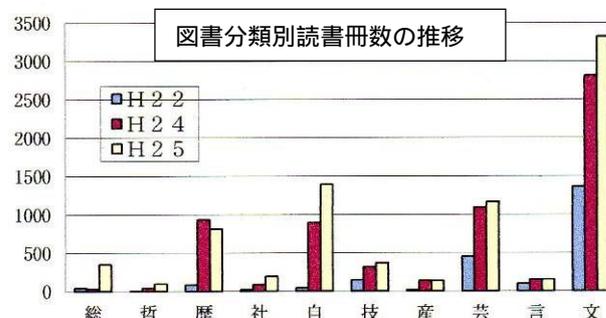
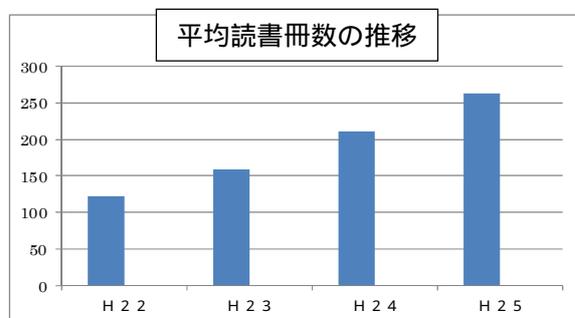
(4) 人気作家との出会い～「オーサー・ビジット」～

人気の作家（オーサー）が学校を訪問（ビジット）して、子どもたちに特別授業をしていただく取組を11月27日に実施した。講師は子どもたちに大人気の絵本作家の「香川元太郎」さんである。子どもたちは迷路クイズに挑戦したり、巨大迷路を作ったりしながら楽しい時間を過ごすことができた。人気作家と出会い、本をより身近に感じることができたこの経験が、さらに本好きな子どもたちを増やすことに、つながってくれるものと期待している。



3 成果

- (1) 「読書マイブック」による振り返りや担任の声かけにより読書意欲が向上し、年々50冊近く読書冊数が増加している。
- (2) 学校図書館と連携した教科等における調べ学習や読書分類のグラフ化の実践により、読書ジャンルの幅が広がってきている。



4 終わりに

一人平均200冊を読むと到達する全校読書10,000冊の学校目標を、今年度も早々と達成した。今後も「読書マイブック」の有効活用や、子どもたちが本とふれ合う様々な取組を通して豊かな感性を育み、読書好きな子ども日本一の学校を目指していきたい。